

1. 東北地方から九州地方にかけての全国各地から、有力な豪族の遺骨を集めて埋葬した場所である。
2. すべて直径10メートル程度の小さな円墳のみで構成された、庶民のための墓地群である。
3. 日本最大の面積を誇る大仙古墳（大山古墳）など、巨大な前方後円墳が含まれている。
4. 仏教が伝来した後に、聖徳太子の命令によって各地の寺院の隣に作られたものである。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 前方後円墳	3世紀後半から6世紀頃にかけて造られた、日本を代表する古墳の形式です。近畿地方で発生し、一方が方形（四角）、もう一方が円形を呈していることからその名がつけました。当時の首長の権力の大きさを示す象徴的な建造物です。
問2	答え 2 ヤマト王権に従った各地の豪族が、王権との結びつきを周囲に示すとともに、自らの権力を誇示するために築造を認められた。	前方後円墳という特定の形状が日本各地に広がった事実は、当時のヤマト王権を中心とした政治的な連合が広範囲に及んでいたことを示しています。各地の有力な豪族は、ヤマト王権の支配体制に組み込まれることで、その象徴である前方後円墳を築く許可を得て、自身の支配権を正当化しました。渡来人の技術は築造に関わっていますが、目的は公共事業ではありません。また、古墳は住居ではなく墓であり、仏教伝来以前の文化です。
問3	答え 1 大和政権を中心とした政治的な連合や服属関係が、各地の豪族との間に結ばれていたこと。	前方後円墳という日本独自の特定の形式が列島の広い範囲に普及したことは、それらの地域が「大和政権」を中心とする政治秩序の中に組み込まれていたことを意味します。共通の墓の形を採用することは、大和の王との結びつきを周囲に示す重要な手段でもありました。
問4	答え 4 大和政権が、支配下に入った各地の有力者に対して支配や同盟の証として鏡を配付した状況	同じ型から作られた鏡が広範囲で見つかることは、中央の大和政権が中国から入手、あるいは国内で製造した鏡を、自らの権威を認めた地方の有力者に分け与えたことを示唆しています。これにより、大和政権を中心とした政治的な連合や支配体制が、近畿地方から遠隔地へと広がっていった背景を読み取ることができます。
問5	答え 4 倭王 武	中国の南朝に朝貢した「倭の五王」のうち、最後に登場する「武」は、稻荷山古墳の鉄剣銘文にある「ワカタケル（獲加多支鹵）大王」と同一人物であるとする説が有力です。当時の倭の王は、朝鮮半島での軍事的な指揮権などを認めてもらうため、中国の皇帝から称号を得ようと外交交渉を行っていました。
問6	答え 2 漢字	古墳時代に大陸の進んだ技術や文化を持った人々（渡来人）が日本列島へ移住した際、儒教や仏教とともに伝えられたのが漢字です。これにより、それまで文字を持たなかった日本において、出来事の記録や政治的な文書の作成が可能となりました。ひらがなやカタカナは、後にこの漢字を崩したり、一部を取ったりすることで日本独自の文字として発展したものです。
問7	答え 4 魏 —— 呉・蜀	卑弥呼が使いを送った相手は、中国大陸の北部に位置した「魏」という国です。当時の中国大陸は、北部の魏、南東部の呉、南西部の蜀の三つの勢力が争っており、この複雑な国際情勢の中で、邪馬台国は魏との外交関係を築くことで自国の立場を安定させようとしていました。
問8	答え 1 鉄剣	稻荷山古墳から出土したこの鉄剣には、115文字に及び漢字が刻まれており、当時の政治状況や文字の使用状況を知る一級の史料となっています。刻まれた「獲加多支鹵大王」は、日本書紀や古事記に登場する雄略天皇を指すと考えられています。
問9	答え 4 大仙古墳（世界文化遺産）	5世紀の古墳時代中期に築造された大仙古墳は、全長約486メートルを誇る日本最大の古墳です。その圧倒的な規模と独特な形状は、当時のヤマト政権の強力な支配力を示すものと考えられています。2019年には、周辺の古墳とともに「百舌鳥・古市古墳群」としてユネスコの世界文化遺産に登録されました。
問10	答え 1 中国皇帝から王としての国際的な地位を認められ、朝鮮半島南部での立場を有利にするため	5世紀の古墳時代、倭の五王は中国の南朝に朝貢しました。当時の倭の王は、大陸の強大な王朝から「倭王」としての称号（冊封）を得ることで、自身の権威を国内外に示すとともに、鉄資源の供給地として重要だった朝鮮半島南部における外交的・軍事的な優位性を確保しようと考えました。
問11	答え 4 百舌鳥・古市古墳群が広がる、近畿地方（大阪府付近）	大仙陵古墳は、現在の大阪府堺市に位置しています。この地域には巨大な古墳が集中しており、2019年には「百舌鳥・古市古墳群」としてユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録されました。岩手県の平泉や、静岡県富士山、鹿児島県の屋久島もそれぞれ世界遺産に登録されていますが、古墳時代を象徴するこの巨大古墳は近畿地方に築かれました。
問12	答え 3 漢字を伝えることで、ヤマト政権における外交や記録、財政などの実務を支えた。	渡来人は文字（漢字）の知識だけでなく、養蚕、機織り、土木技術、須恵器の製作など、当時の日本にはなかった高度な技術を伝えました。特に漢字を用いた文書作成能力は、ヤマト政権（大和朝廷）が組織を運営し、大陸の諸国と外交交渉を行う上で欠かせないものとなりました。鉄砲は16世紀、稲作や青銅器は弥生時代以前に伝わったものであり、時期や内容が異なります。
問13	答え 3 渡来人	朝鮮半島での戦乱などを背景に、多くの人々が日本列島へ移住しました。彼らは、ため池を作る土木技術や金属加工、機織りなどの実習的な技術だけでなく、漢字や儒教、仏教などの思想や文化も日本に伝え、日本の社会や国家の形成に大きな役割を果たしました。
問14	答え 3 日本最大の面積を誇る大仙古墳（大山古墳）など、巨大な前方後円墳が含まれている。	百舌鳥・古市古墳群は、現在の大阪府堺市、羽曳野市、藤井寺市に広がる古墳群です。4世紀後半から5世紀後半にかけて、当時の王権（ヤマト政権）の王たちの墓として築かれました。